

学校目標		重点目標(中期長期的目標)		総合評価				
「剛健質実」 ～やさしさ・たくましさ・夢～		授業を学校づくりの根幹と考える学校		成果と課題			評価	改善策・向上策
		今年度の重点目標						
		学校教育目標 ○こつこつ勉強しよう。：夢の実現に向けてこつこつ努力しよう。 ○厳しく鍛えよう。：自分で自分を鍛えてたくましい自分になろう。 ○良い友だちをつくろう。：思いやりのあるやさしい人になろう。まずは自分が良い友達になろう。	「理解・支援・応援」 ひとりひとりが大切にされる学校を目指して	「指導の前に理解」を基盤とし、生徒理解に努める。 主体的に追究できる生徒の育成を目指す。 家庭との綿密な連携、地域での学習展開、小学校との連携を図る。	○重点目標については、毎日のこと精一杯だったが、おおむね重点目標にそった指導をしてきた。ただ、意識したからで話なかった。 ①「指導の前に理解」 ○生徒に向き合い寄り添うことを自分なりに大切にできた。「指導の前に理解」という姿勢は常に意識していたと思う。これまでにあまり関わるのでできなかった生徒にも、残された数ヶ月で積極的に関わるようにしたい。 ○多くの先生方が生徒理解に努め、丁寧な生徒指導を行っていた。 ○授業や普段のかかわりを通して生徒理解につとめた。一人一人への声かけや支援は、その子に応じた内容にすることを職員間でもよく話すことで、効果的にできた。 ○生徒理解に立った指導の方向性を先生方が話し合っていて決めていると感じる。 ②主体的に追究できる生徒 ○授業の学習問題を問いかける内容にすることで、問に向かって読んだり話したりする生徒の様子が見られた。また、単元の最初にMy Goalを設定することで、自分の立てた目標や課題に向かおうとする生徒も増えてきた。 ○総合的な学習で、地域で活躍する方のもとへ赴き、仕事を体験したり話を聞いたりした。地域について考え、自分なりにさらに良い場所にするためのアイデアを考えるきっかけになった。 ○職員研修を通して、授業の中で主体的に追究できる課題設定をされている先生方がほとんどだった。 ●生徒が追究する場面設定よりも、効率を重視してしまい、授業が教師主導になってしまうことがしばしばあるので気をつけたい。 ③家庭・地域・小学校との連携 ○家庭連絡や支援会議などで情報共有されている。 ○体調不良やケガの対応で家庭へ連絡が必要な時などは、電話や手紙で丁寧に行うことができた。 ○小学校との連携をさらに深めていけると思う。 ○担任の先生方が、家庭との連絡を密に取り、信頼関係を結んでいく姿が多く見られた。多くの生徒達が安心して学校生活を送る姿につながっていたように感じる。 ○来年度の新生入受け入れ担当学年であるため、今後も小学校との連携を図り、落ちのないよう来年度の準備を進めていく。 ●小中合同開催の学校保健委員会について、認識のずれがあった。	A b B b A a	・重点目標をもっと口に出して意識したり、職員会の最初に振り返ったりをこまめにするとよいか。 ・異学年間の生徒指導に関する情報共有が不十分に感じる。職員会でもそうだが、学年の中で指導できているから良いではなく、積極的に多くの先生方に伝えていくべき内容があると思う。私もまあ大丈夫かなと思って共有していないことがあった。この状態が続くと、本当に大切なことまで共有されず、生徒と関わることになる可能性もある。生徒指導会議に出席していない先生たちも、もっと興味関心をもって生徒理解に努める必要がある。職員会で、生徒に関する連絡をより伝えあって全員で理解を深めていきたい。 ・職員間で指導すべきことや大切にしたいことの共有をしていく。 ・改善できる場面ではすんずで改善する。 ・今後も継続させていく。 ・来年度の学校保健委員会について、小学校養護教諭や教頭と早めに相談、検討し、共通認識のもと開催できるようにする。 ・授業公開は小中で定期的に行える仕組みを作っていけるとよいかと感じた。	

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
教育	教育課程	学び合いの質を高める	○ 学び合いが必要な場面設定の工夫 (導入・追究・まとめ) ○ 4つの「K」を意識した学び合いの場面設定 (比べる・検討する・関連付ける・見方を変える) ○ 学び合いの授業の提案	○意識して学び合いの場を設定した。クラスによっては誰とでも関わるできるようになってきた。 ○自分の場合、「まず4Kありき」で授業を組み立てるとうまくいかないのが、授業を振り返ったときに自然と「4K」が浮かび上がるような場面設定を行った。 ○板書や授業の様子を通して、4Kを意識した授業づくりを学び合うきっかけができた。他教科の内容からも参考になる「問」の立て方があり、自身の授業改善に生かされている。 ○4Kを意識した授業づくりや改善を進めていた。 ●「見方を変える」が難しい。 ●先生方によって、意識の違いあり。 ●先生によって意識の差が激しい。	B b	・男女が混ざって話し合いや学び合いができるクラスとなかなか進まないクラスがある。基盤である日頃のクラス作りも同歩調でしていく。 ・学級のよさ、特徴を最大限に引き出せるような場面設定を今後も考えていく。 ・校内でも、授業を見合う機会を意図的に設ける必要があるか。先生方に温度差はあるので、来年度は、1人1公開や個人追究のような「個」で取り組む活動を検討する。・全員が公開授業を行う。 ・4Kは学び合いを促す手段だと思うので、実際に授業を見合って、学び合う姿からも研修ができればよいと思う。
		ICT機器の活用	○ ICTの活用事例づくり ICT活用の模擬授業 ○ お互いに授業のサポート ○ 家庭学習への利用	○毎時間使うようになった。適材適所でICTを活用することを心がけた。 ○家庭学習への活用は少しずつ進んでいる。音読や発表の録画録音を提出するような形にして3学期以降も活用していきたい。 ○ICTの活用が多い。	A a	・今後もICTのよさを活用しながらも、振り回されることのない授業づくりを心がけたい。
活動	学習指導	自己表現力の育成	○表現したくなるような課題を追究しているか。 ○表現力を高めるための手だて(言語活動、グループ学習、学び合い)の工夫ができたか。 ○ICT機器を活用して、生徒の表現力を引き出したり伸ばしたりすることができたか。	○表現したいほどではないが、友達はどうか表現しているかを知りたくはなかったと思う。 ○話し合ったり、相談し合ったりすることのできる時間は設けているが、それが学び合いにつながり、自己を高められているかは疑問が残る。 ○文字で理解が難しいところはICTを利用し、可視化できるように授業で取り入れた。 ○表現力を伸ばす工夫を試行錯誤している。	A a	・振り返りの時間を確実にとって、認め合う時間にもすること。 ・学級の特性に合ったグループ学習のスタイルを模索する。自由な意見交換だけでなく、形式やルールに沿った話し合いの場も設定し、力を向上させる。
		自ら考えて取り組む家庭学習の実践	○ 自分にとって必要な学習を行う家庭学習 授業につながる家庭学習 (反転学習) ○ 学習計画など支援の仕方・長期休業、テスト前の学習 ○ 評価のあり方について検討を進めたか。	○家庭学習については、取り組むべき範囲を明示し、意欲の向上を図った。また、家庭学習用のプリントを置くコーナーを設置した。 ○表現したくなるような場面設定は意識している。お互いの考えもSmall Talkで伝えあったり、スクールタクトで見合ったりしている。 ○テスト計画表は、学年で少しでも楽しく学ぶことができるような工夫をした。評価のあり方については、教科で再検討したい。 ○身近にあふれるデザインを感じてほしいと考えている。 ●英国数の課された課題は確実に実施、提出させたいがそうではない。 ●改善の余地あり。今後も研究していく必要がある。	B b	・必要感をもたせる手立てを考える。「やってよかった」経験の繰り返し体験をさせたい。 ・生徒によって取り組みに差があるので、より多くの生徒が向き合えるような工夫をしたい。 ・毎週または隔週の月・水曜日のからまつの時間を利用して、1週間の家庭学習のプランニングタイムを設定する。その時間に、振り返りや次週の計画を立てて、すべての生徒が見通しをもって家庭学習に取り組めるようにしていくのはどうか。 ・毎授業で振り返りの時間を取るのか、単元ごとなのかは、その良さと課題を踏まえて検討していきたい。
			○具体的な目標をもち意欲的に活動するよう指導できたか。	○指導は主に主顧問の先生にお任せしてしまっているが、部活動に顔を出すなど、自分なりに協力できる部	A	・今後も継続させていく。

	部活動	目標と規律のある活動	○時間や学校のきまりを守り、活動するよう指導（「時を守り、場を清め、礼を尽くす」指導）ができたか。	分は協力してきた。 ○良い。部活動がなくなっていく流れだが、部活動の意義として「人間形成」を大切に取り組んでいくことは学校にとって大きな価値があるものだと思う。 ○部の目標を明確にすることで、意識向上を図った。保護者に理解してもらいたいところで、生徒の思いと保護者の思いが異なり、指摘を受けることがあった。直接伝えたり方法を示したりして、指導することができた。	b	・部活動の下校時刻を、厳守できないことがあったので、5分早く活動を終了する。 ・部活動保護者を年に2回実施する。
		活動時間の設定	○スポーツ文化活動運営委員会の活動が有効に働いているか。 ○夏期と冬期の日課、週二休養日の設定、延長部活の運営は適切であったか。	●スポーツ文化活動運営委員会は必要なかが疑問。	B b	検討したい。
	生徒指導	課題に主体的に取り組む生徒の育成	○規律ある学校づくり(生徒会3本柱活動)をはじめ、問題解決ができるよう指導の工夫ができたか。(生活、時間、清掃、給食) ○いじめ・仲間外してさびしい思いをすることがない学校を作ろうとする生徒の意識を高める指導ができたか。(西中人権宣言の趣旨を活かして) ○自分の将来に夢をもち、その実現に向かって進路を具体的に考えられる指導ができたか。	○学校生活アンケートの結果集計し、運営委員会や生徒指導会議で共有できた。 ○関わる中で気になった生徒や、相談を受けた内容などを担任や教頭、生徒指導会議で共有できた。 ○さびしい思いをしている生徒や取り残されている生徒がいないように、自分なりに目配り、心配りしてきた。 ○朝、定刻に図書館が開館しないことが時々あったため、自分で解錠するようにした。図書館に来る生徒たちと会話を交わしながら、今の状況を知り、生徒理解を深められる場となっている。 ○学級内で、清掃や給食のリーダーを決めて、定期的に振り替える時間を取ったので、生徒自身で振り返るきっかけになった。ある程度の生徒は、自分の役割を果たそうと一生懸命取り組んでいた。 ○相手の気持ちになって、発言したり行動したりするということを繰り返し指導している。 ●生徒に対する職員の姿勢、職員のあり方に差がある。先生の個性に任せて良い部分と、足並みをそろえる部分=ここはきっぱり指導しようという部分が無くなってきた。指導することから逃げてはいないか。生徒の命を預かっている、社会に送る人を預かっている立場として、ダメなものがあること、ダメなものはダメと言うことはいわなければならないと思う。インクルーシブも分かるが、色々がスマートにできる生徒、理解の早い生徒、不満や不安をかかえていない生徒を放っておいてはいないか。その生徒たちにつけたい力は何かも同時に話し合っ共有するのが良い。学校教育目標は、生徒との間でお互い言葉にすることができなかった。 ●教師が指導する(いけないものをいけないと言う)ことが減り、いい加減になってきている部分もある。3本柱への意識、時間への意識など、「自分で自分を鍛えられない生徒」が増えてきたように感じる。 ●規律ある学校づくりは、できていないと思う。生徒の意識、職員の意識も分からない。 ●これは改善の余地あり。立て直したい。 ●伝え方がうまくいかないことがあった。	B b	・今後も継続させていく。 ・3本柱については、生徒会を通してその意義について見つめ直す機会を設けていく。3本柱を大切にしていくなら、生徒会活動の中で重点活動を据えて、生徒主体で取り組んでいけるようにしていく必要あり。 ・生徒も職員も意見を出し合う機会が必要。 ・小さなことでも「報・連・相」を徹底して行う。伝え方に困った際は一人で抱えず、管理職に相談する。 ・西中人権宣言をもう少し利用したい。ことあるごとに内容を確認する機会を設け、考える時間を取る。
		共通基盤に立った生徒指導	○実態に応じて具体的な指導項目を決め、学年全体で指導できたか。 ○「報・連・相」を日常的に行い、生徒一人ひとりの状況について共通理解ができたか。 ○学校生活アンケートや、ケース会議、教育相談、その他学校の教育環境が、いじめ・仲間外しの早期発見に有効に機能したか。 ○いじめ・仲間外しの発生に関しては、発生の事実を迅速に職員に周知し、共通理解のもと指導が行われ、再発防止に的確に取り組むことができたか。	○朝の入室、挨拶を揃えること、語先後礼など、時期に応じて指導した。 ○行事や総合的な学習の時間などでは、係活動や役割分担を明確にしながら、生徒一人ひとりが輝ける場を持てるよう、自分なりに工夫した。 ○生徒指導では、やや人任せにしてしまうことがあった。 ○学年、管理職との「報・連・相」も密に取りながら、進められたと感じる。 ○相談や悩みにすぐ対応することができているし、担任以外の職員も、生徒の状況にあった支援策を示してくれる。保護者にもきちんと理解してもらっている。今はまだ様子を見ながらという生徒もいるがじっくり支援していきたい。	A a	・時期が終わっても身につくような指導をする。 ・今後も継続させていく。 ・学年の職員間で密接に連絡を取り合う。
学校	安全	安心で安全な学校	○生徒を認め、勇気づけ、ともに学び成長することに喜びを見いだす指導を実践できたか(認め、勇気づける教師の構えを持って指導に臨んだか)。 ○一人一人の生徒の居場所づくり等について生徒とのコミュニケーションを十分とることができたか。	○「一日総合」の校外学習では、学んだことが人生をより豊かにし、将来に結びつくよう場面設定やまとめを工夫した。生徒が1日に一つでも、「今日は学校に行ってきた」「新たにこんなことを知った」と言えるようになることを、常に心がけていきたい。 ○安心して相談できる場所の一つになるよう、開けた保健室を目指した。 ○学級での役割を果たすことができるように、良い所をピックアップして紹介し、自分の仕事に誇りややりがいを感じながら取り組むことができる生徒が増えてきた。	A a	・総合的な学習の時間に関しては、活動一つひとつをその場で終わらせるのではなく、テーマに沿って一貫性のある指導を行っていく。
			○施設が安全で防災体制が整っているか。 ○本校の生徒の登下校が安全にできるよう指導することができたか(交通、不審者、熊への対応等)	○緊急時に対応しやすいよう、救急セットを見やすい位置に置いたり、対応を再確認したりした。 ○学級で適宜指導した。 ●校舎が老朽化しており、危険に感じる場面がある。安全面では万全の注意を払う。	B a	
運営	地域との連携	地域に開かれ、信頼関係を築ける学校	○参観日の授業評価が適切に行われ保護者の意見を吸収することができたか。 ○学校保護者アンケート等で保護者の率直な意見が聞けたか。 ○学年・学級PTAの運営を工夫し、保護者との連携を図ることができたか。 ○心を豊かにする交流が積極的にできるような指導はできたか。(伊那養、保育園、福祉施設との交流・外部講師による支援・等、地域との連携)	○PTA作業では、保護者の方と連携を図りながら、作業を行うことができた。 ○理事評議員会に参加し、意見を交わすことができた。 ○多くの保護者の方々が学級・学年PTAに参加してくださっている。職員の役割分担も適切である。	A a	
		適切な情報発信	○学校・学年・学級から積極的に必要な情報発信ができたか(紙面構成を工夫し、読んでみたくなる通信)	○学年通信は、自分なりに工夫して作成した。 ○ほけんだよりを発行した。 ○読んでみたくなるかは文字が多いので達成できていないかもしれないが、保護者の方からも読んでいるという話を聞いた。 ●学校のHPでの発信はしないのか。 ●月に1回出すことを目指したが、出せない月があった。	B b	・行事の前には出せるようにする。 ・写真や図を効果的に使用してみる。
	研修	教職員研修システムの充実	○全校研究テーマ具現を共通の目標に、課題と手だてをもって公開授業ができたか。 ○小中合同研修では、小学校との連携を大切に指導にあたることができたか。 ○通常の職員会議を研修の場と位置づけ、学習指導・生徒指導・生徒理解を主としたか。 ○すべての生徒に学習の場を保障するための工夫を行ったか	○小中合同研修では教科毎の話し合いが有効だった。相互参観は、空き時間でないと行けないので難しい。 ○小中合同研修は、教務の先生方にご苦勞いただき参観し合える場を設定していただいた。小学校の授業から学ぶことも大きく、とても良い機会となった。 ○来年度の新入生受け入れに向け、合同研修や交流などを通して小学生の様子を知ることができた。 ○課題と手立てをもって授業を行った。今年度は公開を行う機会はなかったが、来年度は自ら名乗り出たい。	A a	・相互参観は、空き時間が1時間しかなくても行く、短時間でも参観することが大事で少しの時間でいいならその日時を決めずに、まとまった数日間を設定して自由に行き来するのがよいと思った。 ・小学校との連携を図り、新入生受け入れを計画的に進めていく。 ・学び合いを軸にするのなら、4K以外の手立ても必要に思う。何をもって学び合いととらえるかは人それぞれなので、共通認識を全職員で

		<p>豊かな人間性の育成を図る学校づくりの研究</p> <p>○「自立した生徒」を育てるための家庭学習の在り方を、1年間かけて探れたか。</p> <p>○単元のまとまりの中で実現を図る、各教科の「見方・考え方」、ICT機器活用、学び合いを視点とした研究体制は有効であったか</p> <p>○生徒理解のための研修ができたか。 (事例研究や不応生徒の理解、UD研修等)</p>	<p>●家庭学習については、引き続き検討が必要。</p> <p>○ICT 関連でわからないことは、ICT サポーターの先生にすすんで聞くことができた。</p> <p>○UD 研修では普段の授業の振り返りを新たな視点で行うことができた。当たり前にも思っている生徒が言うと思って、取り入れていきたい。</p>	<p>A a</p>	<p>確認したい。</p>
--	--	--	--	----------------	---------------